

マリレジャーに関する安全情報など様々な情報をお届けします！

海の事故情報 10月中のマリレジャーに伴う海難・人身事故の発生状況

プレジャーボートの海難

- ①【機関故障】10月27日、宮城県松島湾内において、プレジャーヨット（1.1トン、1名乗船）が帆走から機関による航走に切り替えようとしたところ機関が始動できなくなりました。同船は、風浪が強まる中、帆走により狭い海域を通過して定係地に入港することは困難と判断し、海上保安庁に救助を求め、間もなく駆けつけた宮城海上保安部の所属艇により曳航され、無事付近の漁港に入港しました。（原因調査中）

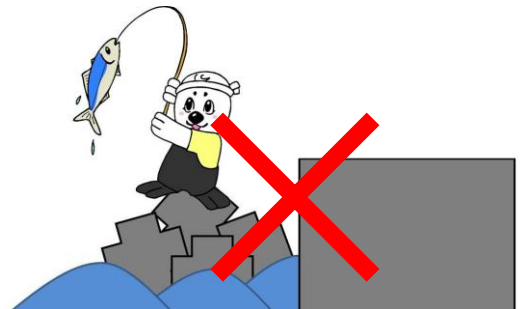


機関故障などを防止するための一般的な注意事項として、日頃から定期点検・整備を励行して、消耗品類はメーカーが推奨する期間内に交換しましょう。発航前の点検も怠らず、燃料量、エンジンオイル量、バッテリー電圧などは、必ず点検しましょう。チェックリストはこちらから↓↓

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/O2kanku/yorozuya/shiryousouko/hakkomaetenken.pdf>

海浜での人身事故

- ①【海浜事故】10月23日、山形県鶴岡市の漁港防波堤で、釣人が消波ブロックの間の海に転落し、間もなく仲間や付近の釣人に救助されましたが、搬送先の病院で死亡が確認されました。（ライフジャケット未着用）



消波ブロックは、安定した足場が無い上に滑りやすく、

転落した場合は隙間に入り込んで這い上がれなくなります。また、救助作業も困難になるなど非常に危険ですので、消波ブロック上での釣りは絶対に止めましょう。

海の安全情報 小型船安全協会について



小型船安全協会の曳航救助訓練

「小型船安全協会」は、モーターボートやヨットなどの小型船舶の海難の防止や運航マナーの向上を図り、安全に海洋レジャーを楽しむことなどを目的に、各地に設立されている団体です。会によって活動は様々ですが、海難防止講習会や救難訓練などを行ったり、海難に遭遇した際の相互応援の体制を整備している会もあります。また、仲間同士が集まり、地域の海の情報を交換する場にもなっていて、ほとんどの団体は、個人での入会を受け入れています。

各地に設置されている小型船安全協会の連絡先については、最寄りの海上保安部にお問い合わせください。

ださい。

海難防止活動 釣り中の事故防止推進活動を実施中

第二管区海上保安本部では、釣り中の海中転落事故防止を目的に、自己救命策の確保（ライフジャケットの着用、携帯電話等連絡手段の確保、海のもしもは118番）、気象・海象の把握、複数での行動の励行などを重点に、釣り場の巡回指導や釣具店を通じた安全指導などの周知啓発活動を実施しています。（12月末まで）



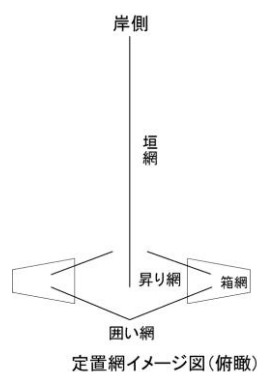
昨年の安全指導の様子

ワンポイント講座 事故防止のためのワンポイント講座。『沿岸の漁業施設に注意！』

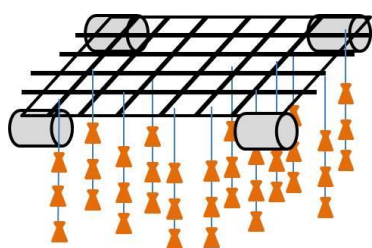
日本各地の沿岸には、定置網や養殖いかだなどの漁業施設が多数設置されています。船が誤って漁業施設に入り込むと、施設に乗揚げたり、ロープや網をプロペラに巻き込むなどして動けなくなったり、施設に被害を与えてしまうことになるので、沿岸を航行する際は、事前に設置場所を確認し、施設を避けて航行しましょう。

東北の沿岸に設置されている漁業施設には、次のようなものがあります。

【定置網】 岸近くに網を固定して設置し、回遊する魚を採取するもの。規模の大きいものから、小型のものまであり、大型のものは1ヶ統（1つの定置網一式を言う）ずつ設置場所が定められている。網は水中にあるが、網の上部のロープには多数の浮玉が取り付けられ、網を固定するため多数のロープが水中に伸びている。網の目印として沖側にボンデン（竿の先に旗や灯火が付けられた標識）やブイ（灯浮標）などが設置されている。〔定置漁業又は共同漁業〕



定置網イメージ図（俯瞰）

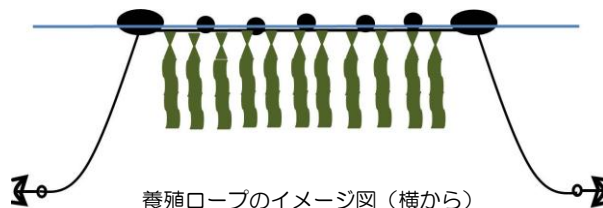


養殖いかだのイメージ図（俯瞰）

【養殖いかだ】 沿岸の水域に木材や竹などを組んだいかだを固定して設置し、かき、ほたて貝などを吊り下げて養殖している。養殖施設を設置する区域が定められていて、区域内に多数のいかだが設置されている。いかだは水面上に浮かんでいるので、比較的見つけやすい。養殖区域の目印として、要所にボンデンやブイなどが設置されている。

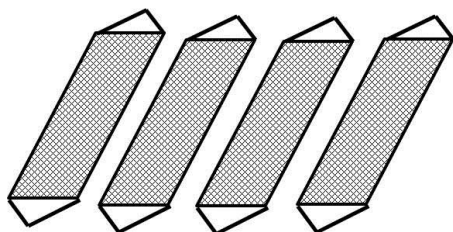
〔区画漁業〕

【養殖ロープ】 沿岸の水域に浮玉を付けたロープを固定して設置し、わかめ、こんぶ、かき、ほたて貝などを吊り下げて養殖している。養殖施設を設置する区域が定められていて、区域内に多数の養殖ロープが設置されている。ロープの大部分は水面下であり、浮玉だけが水面上に浮かんでいる。養殖区域の目印として、要所にボンデンやブイなどが設置されている。〔区画漁業〕



養殖ロープのイメージ図（横から）

【のり網】沿岸の水域にのり養殖用の網を固定して設置している。養殖施設を設置する区域が定めら



のり網のイメージ図（俯瞰）

れていて、区域内に多数ののり網が設置されている。水深の浅い場所では、竹ざおを海底に突き立てて網を設置するため、多数の竹ざおが海面上に突き出ているが、水深の深い場所では、網を海面に浮かせているため見つけにくい。養殖区域の目印として、要所にボンデンやブイなどが設置されている。

〔区画漁業〕

これらの漁具は、漁業権に基づく漁場の区域内に設置されています。漁業権漁場のおおよその位置などの情報は、Cies Net（シーズネット）の「漁業情報マップ」でご覧いただけます。パソコンの場合は、次のURLから。検索サイトから「シーズネット 漁業マップ」でも検索できます。

<http://www2.kaiho.mlit.go.jp/>

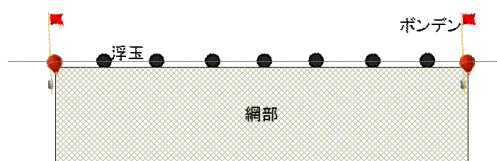
スマートフォン専用サイトは、こちらから →



海の言葉 海や船に関する用語について解説します。『ボンデン』

漁業で使用する浮標を「ボンデン」と言います。刺網や定置網、養殖施設などの漁具の位置を示すために設置されるもので、竿の上部に旗や点滅灯、中ほどに浮玉、下部に錘を取り付け、水面上で旗竿が立ち上がり、目印となります。

ボンデンが設置されているのを見つけたら、近くに漁具が設置されている可能性がありますので、周囲の状況を確認して、漁具を避けて航行しましょう。

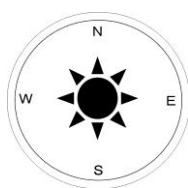


ボンデンの使用例のイメージ図



ボンデン

羅針盤 編集担当者の四方山話的コラムです。『LGL』



主に漁業協同組合の女性部の方が中心となって、ライフジャケットの着用推進活動を行っているLGL（ライフ ガード レディース）。発祥は石巻市の旧雄勝町 東部漁業協同組合女性部で、平成 18 年に 3 人のLGLが誕生しました。当時の石巻海上保安署長の「漁業者の方々が自ら盛り上がるような活動を」との方針のもとに、海難防止業務の担当職員が中心となって検討し、漁協に協力をお願いして始めた取り組みでした。最初は、効果が上がるのか半信半疑でしたが、LGLの方々と保安署の職員が一緒になって、何度か漁港回りをしてライフジャケットの呼びかけを行っているうちに、目に見えてライフジャケットを着用する方が増えていくのがわかりました。LGL以外の女性部の方々も、「お爺ちゃんもお父さんも、ライフジャケットちゃんと着ねばダメだよ！」と家族に言ってくれていたものと思われ、浜の母ちゃんたちのパワーを感じたものでした。

LGLの活動は、今では宮城県だけでなく、全国各地に広がりを見せています。

プレジャーボートを操船する方も、釣りに出かける方も、自分の身を守ると同時に、愛する家族を守るために、ライフジャケットの着用を！



大切な命! 自分で守る



海上保安庁では、大切な命を自分で守るため、そして、一人でも多くの人を救助できるよう、次の3つを基本とする「自己救命策確保」を推進しています。

ライフジャケット
の常時着用



携帯電話など
の連絡手段の
確保



救助要請
は118番

海のもしものは!

118

本紙を印刷物でご覧の方へ

マリレ情報よろず屋をホームページからご覧になる場合は、次のURLから! 「マリレよろず屋」で検索してもヒットします!

<http://www.kaiho.mlit.go.jp/O2kanku/yorozuya/index.htm>

マリレよろず屋

で

検索

